



人々の行動をスムーズにするピクトグラムについて考えてみよう。

**挑戦!**  
岩手県立一関第一高等学校附属中  
2018年度 適性検査から抜粋(一部改変)

なおさんは、ニュースで東京オリンピック・パラリンピック2020の開催に備えて、ピクトグラムの変換が考えられていることを知りました。

温泉	案内所/情報コーナー	さわるな
外国人には温かい料理を出す場所とされていてしまう。	外国人には、「?」の意味がわかりにくい。	外国人には、「こちらへ来るな」という意味に思われてしまう。

そこで、なおさんは、ピクトグラムについて調べたことをノートにまとめました。

【なおさんのノート】

**ピクトグラムとは**

- 言葉を使わずに簡単な絵だけで情報を伝える案内用図記号である。
- 1964年の東京オリンピックで、様々な国から訪れる外国人のために考えられ使用されたことで、その後も世界中の公共交通機関や公共施設などで使われるようになった。
- 地図記号の中にも、ピクトグラムをもとに作られたものがある。

**【1964年の東京オリンピックで誕生したピクトグラム(一部)】**

施設について案内するもの      競技について案内するもの

シャワー	レストラン	トイレ	陸上競技	フェンシング	レスリング

(東京オリンピック1964デザインプロジェクトより作成)

資料1 【外国人に温泉記号はどう受け止められているのかについての調査結果】

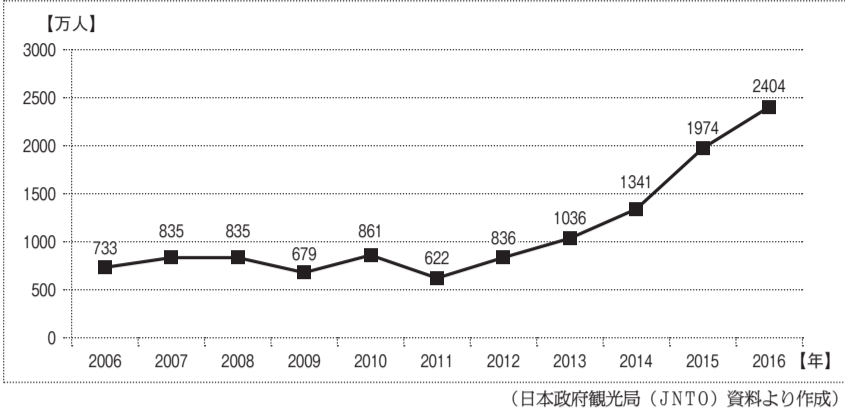
調査結果：わかりやすい 661人、わかりにくい 276人  
わかりにくいと答えた人のコメント：

- 温かい飲み物(コーヒーやスープ等)と混同する 12人
- レストラン/コーヒーショップ/きっ茶店みたい 8人
- 日本文化の知識がなく初めて訪日する外国人にはわからない 5人
- ラーメンに見える 4人      温かい食べ物のお皿に見える 4人
- 食べ物に見える 2人      温泉に見えない 2人
- 温かいうどんに見える 1人      切手みたい 1人

(2015年 国土地理院のアンケート調査結果より作成)

# 資料問題編⑥ ピクトグラムの役割とは

## 資料2 【日本を訪れた外国人の総数の変化】



問題1 資料1、資料2をもとに、以下の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) 日本を訪れた外国人の総数は、2006年から2016年にかけておよそ何倍に変化していますか。答えは小数第1位を四捨五入し、整数で答えなさい。

(2) 資料1の調査結果をもとに考えると、2016年の日本を訪れた外国人の総数のうち、温泉の記号をわかりにくいと考える外国人は、約何万人になると考えられますか。次のア～エの中から1つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 約70万人    イ 約120万人    ウ 約700万人    エ 約1200万人

なおさんは、国土地理院が外国人向けにわかりやすい地図記号を作成したことを知りました。くわしく調べてみると、資料3を見つきました。

## 資料3 【日本の地図記号と外国人向け地図記号の比く】

項目	日本の地図記号	由来	外国人向け地図記号	由来
① 博物館		博物館の形のイメージより		「博物館/美術館」のピクトグラムより
② 空港 飛行場		飛行機の形より		「航空機/空港」のピクトグラムより
③ 交番		日本で古くから泥棒を防いだり、取りおさたりするために使われてきた警棒を交差させた形より		警官が敬礼した姿に建物を表すわくをつけたものより
④ 郵便局		明治から昭和にかけての交通通信行政の中央官庁である逓信省の「テ」より		「郵便」を表すピクトグラムより
⑤ ホテル		ホテルを表す英単語「Hotel」の最初の文字Hを○でかこんだものより		「ホテル/宿泊施設」のピクトグラムより

(2016年国土地理院報道発表資料より作成)

問題2 外国人向け地図記号の中には、日本の歴史的な由来により作られているために、外国人にとって理解しにくいという理由で変換したものがあります。そのような特ちょうのある地図記号を資料3の①～⑤の中からすべて選び、その番号を書きなさい。

なおさんは、さらに外国でも利用されているピクトグラムについて調べていると、資料4を見つきました。

## 資料4 【日本で誕生した非常口のピクトグラム】

- デパート火災でけおくれ、たくさんの方が死者がでた事故をきっかけに作られた。
- 火災の際にも見えやすい線の太さや色、にげる人の影の位置などに細かな気配りがされ、ひなんする人にわかりやすいように工夫されている。
- 国際標準化機構(ISO)に認定された。

旧式の非常口表示(例)  
(過去の写真を参考に作成)

デパート火災後に作られた表示  
(日本照明工業会ホームページ等より作成)

問題3 資料4について、非常口を示すピクトグラムが国際的にも統一されたことで、どのようなよいことがあるか、旅行者の視点から説明しなさい。

**まず解いてみよう!**  
解説・解答を見ないで、まず自分で分析してみよう!

**解説**

問題1 (2) 資料1から「わかりにくい」人の割合は、総数937人(661人+276人)中276人ですから、3分の1弱となります。それを2016年の総数2404万人にあてはめてみると、「わかりにくい」人のおよその人数がわかりますね。

問題2 「日本の歴史的な由来により作られた」ものとすれば、「古くから使われてきた」「明治から昭和にかけての～」から特定できますね。

問題3 国際交流のさかんな現代社会で、多くの人が外国に滞在したり生活していく上で最大の壁となるものは言語といえます。会話のみならず文字は物事を認識する上で重要であるにもかかわらず、外国人にとって困難をきわめます。そこで、特に滞在や生活に欠かせない基本的情報は、万人に共通する常識や感性にうったえる図や記号で表すことで理解が可能になり、スムーズかつ安全な行動をとることができるようになりますね。

ピクトグラムは情報を図記号で誰にでもわかり易く伝える役割がありますが、人によっては認識しづらい場合があります。それは、多くのピクトグラムにはインパクトを持たせるために色がついているのですが、その色が見分けにくい、色覚に障がいがある人たちが、日本だけでも320万人程度もいるようです。そこで、今年4月に日本工業規格(JIS)によって色の改正が行われ、たとえば、赤はやや黄色に近づけたり、青はより明るくするなどより多くの人に配慮されるようになってきました。詳しくは、8月3日付の朝日小学生新聞にカラーでわかり易く掲載されていますので、ぜひ見てみましょう。

**解答例**

問題1 (1) 3倍 (2) ウ      問題2 ③、④  
問題3 どんな地域に住んでいる人にとっても見覚えのある記号になることで、日本語や英語がわからない旅行者も、看板を見ながらすばやくひなんすることができる。